



わたしたちゲイルは、大阪京町堀を拠点とした企画・デザイン・編集会社
スタッフによる日常を綴ったブログマガジン「藝風日和」をご紹介します

オモロく 志の

面白い面白くないじゃない！ オモロくする

(編集も言葉もデザインも、役割ではなく方法)

オモロイはおもしろいとは少しニュアンスの差があり、そこにも大切なポイントがあるように思う。オモロイという形容詞を使うとき、それは「面白い」とか「ためになる」などという判断以前、どこか腹にこたえるものがあつた、何か未知のインパクトがあつたことを意味し、それは知的判断としてよりは、人間全体としての反応の方に重点をおいた言葉である。「オモロイナ、よしやろう!」というように、何かこちらの身体まで動き出しそうな——と言って何をやるのか定かではないが——動きが生じてくるのである。

——臨床心理学者・河合隼雄「こころの声を聴く」

しよう！ 共働

組織を生かす編集という方法

共に考え、共に働く。

理念と現場をつなぐ編集の力、届けます。



クリエイター博覧会2025出展ブースパネル
志の共働→裏面に事業コンセプトがあります。

GALE みんなのお話

「言の葉のちから」

先日マイドームおおさかにて「この街のクリエイター博覧会2025」が開催され、弊社ゲイルも出展することになりブースに足を止めていただく為の手法として「108つの名言」というものを策にしてブースを通る人に次々とお渡しすることを考えた。

これが殊の外皆様足を止めていただき、今日のあなたにとつての名言は何でしょうか？ということでした。それらの葉にかかれた名言を詠み、かみしめ、中には今の自分にピッタリと感動までしていた結果とまでなった。

せっせと手作業で紐付けを行った甲斐が有ったのだが、何の変哲もない1枚の葉に名言というそれなりに深みの。有る「言の葉」が載るだけで人々の感情を揺さぶる効力を持つ。なんとも深く、不思議なものである。

日常においても綺麗で丁寧な言葉遣いを心掛けていると生き方もそれにふさわしくなり、汚くぞんざいな言葉遣いで過ごしているとそれに等しい人生になるのかもしれない。

晶原のプロチームが負けた時思わず雑言を発してしまう吾身を甚く反省する今日この頃である。

一輪の花に贈られる。それは心の余白。
吉村三子(編集)

文・石倉慎二



よもやま話

デザインという制作において色というものは重要な要素の一つである。先日日本の色についての本を読んだ。日本の色の中で「あか」というと赤、朱、緋、紅、丹と5つも有り配合される素材色によって微妙に違つ。

またその名の由来なども面白く、例えば緋色というのは「おもひのいろ（思いの色）」と言ひこれは「緋」の音を、愛しい人への「おもひ（思い）」にかけたものだそうで、こういう事を識るとこの色の感じ方も違つてくるから不思議なものである。

話は変わるが、以前あるカラーコーディネーターの方に自分に合う色の服を提示した予算内で選んで貰うという体験をした事がある。私は自分の好みや意見は一切言わず全てコーディネーターの方に委ねると決めて選んで頂いた。すると今までの私ならまず選ばなかった色やデザインの服がチョイスされた。

驚いたが着用して見ると、何とも新鮮な自分を見つけたらようで気分まで変わった気がしたので覚えていける。これからの日常でも様々な自分の色を出していきたいものである。

文・石倉慎二



日常とデザイン 3

この猛暑の中で信号待ちが辛くなってきた時期です。

ふと信号の色には意味があると実感しました。主に青は許可を示し、黄色は注意、赤は警告・禁止を示しています。これは寒色が奥に感じられ、暖色が手前に感じられる錯覚を利用した配色デザインになっています。

猛暑の中で赤色はより危険なものとして早く認識されるようになっていくということですね。ほんま暑い。……



GALE design quality

文・山田裕司

手前味噌な話

手前味噌な話なんですけど、私、JAZZが好きなんです。日曜日の昼下がりに読書にひたりながら、静かにJAZZを流す。なんか贅沢な時間が流れていくような気がします。

お気に入りのビル・エバンストリオ。名盤は数多いですが、その中の一枚「エクスプロレイションズ」を聴いていると、読書の邪魔にもならず、むしろわらかで楽しいピアノのアドリブソロが心地よく、本の頁を繰るスピードも、なだらかに、楽しげに思える、今日この頃。



文・竹原伸一郎

GALE ▶ 推しカン(company)

#7

ゲイル推しの企業さま ▶ 株式会社京都科学さま

推しカンポイント!

医学、看護、介護教育用実習モデルの開発、製造販売を通して明日の医学会の発展に欠かせない存在の企業様です。



ものづくりで教育に感動を



・医学・看護・介護教育用実習モデルの開発、製造、販売
・医療画像用ファントムの開発、製造、販売
・模型・標本の製造、販売
・歴史文化財の複製品製作



品質・環境方針

われら 社会とともに 在り
教育・文化・福祉を通じて社会へ奉仕する
自主独立・進歩向上・和親協調につとめる
社員の隆昌とわれわれの幸福を期する

存在意義

オンラインワンのものづくり
ナンバーワンの品質

経営姿勢

日本人のものづくり
高付加価値経営
環境保全

行動規範

チームワークとチャレンジ
スピードアップ

上記の社是を品質方針とし、その達成のために以下の事項を実行する。

1. 法令、規制要求事項を遵守し、環境保護も含めた社会的役割を果たす。
2. 要求事項への適合及び設定された品質目標の適切性、妥当性、有効性を評価しマネジメントシステムを継続的に改善する。
3. 品質・環境方針を実践するため、部門ごとに主要管理項目を定めた事業計画を策定する。
4. 品質方針、環境方針を全従業員に周知徹底するよう会社内に掲示、社内報への掲載等を通じて常に啓蒙を行う。
5. 品質方針、環境方針は、当社の社会理念の要諦、社会・経済情勢の変化等に対応できるように適切性を維持するために、必要に応じ見直しを行う。
6. 業態によって生じる差別に与える影響を認識し、環境汚染の予防に努めるとともに、環境保全に努める。

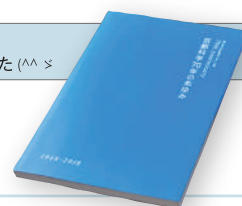
京都科学

大戦直後に島津製作所から標本模型事業を受け継ぎ、2023年に創業75周年を迎えることができました。中小企業にとって事業の継続を維持することは並大抵のことではありませんが、会社はこれまでの恵まれた社会環境と優秀な社員によって順調な歩みをしてきました。近年では念願の海外への進出も果たすことができましたが、スタートができただけで、けっして軌道に乗ったわけではありません。国内も現状に甘んじていたのでは今後の発展は望めないことを社員全員が認識しています。私は決して優秀な舵取り役ではないですが、従来同様に事業推進装置の一部となって会社の発展に尽くし100年企業となる礎になりたいと考えております。

代表取締役社長 高山俊之

京都科学70年のあゆみ
制作させていただきました (^_^)

produced by GALE



ものづくりで教育に感動を

KYOTO KAGAKU

京都本社/工場/ショールーム

〒612-8388 京都市伏見区北堀小屋町15番地 TEL (075) 605-2500(代表) FAX (075) 605-2519

■東京支店/MEMトレーニングセンター ■Kyotokagaku Europe GmbH / Training Room ■Kyotokagaku America Inc.

志の共働事業

媒体・メディアの企画制作で重視するのが「その媒体が誰を幸せにして、何がかわるのか」。

伝えたい人にある、見えないけれど大事な思い(志)を媒介し、そしてそれがどんな物語につながっていくのかを想像して言葉化・意匠化に取り組みます。クリエイティブは目的ではなく手段。

そして「幸せ」という目的のために、私たちはその志を共働するパートナーとして最大限の力を尽くします。